



特色ある組織設置を契機とした教育研究の強化

評価結果

学長のリーダーシップの下、国内初となるデータサイエンス学部の創設を契機に「滋賀大学イノベーション構想」の実現に向けて、自治体、企業等との連携や教育研究の強化に取り組んでおり、37の企業等と連携協定等を締結するほか、現役データサイエンティストの講師招へい等の連携先は50を上回るなど、第3期中期目標期間の目標を達成している。また、寄附金受入額は第3期中期目標期間中の目標額3億円の3分の2(約2億1,400万円)となるとともに、受託研究等の受入額も増加(対前年度4倍以上約6,600万円)するなど、外部資金獲得につながっている。さらに、企業等との連携強化によりデータサイエンスの社会実装の活用事例に直接触れる教育体制の展開を行うとともに、共同研究の成果をPBL(Project-Based Learning)演習教材として活用するなど教育体制の強化も実施しており、特色を活かした取組が評価できる。

参考情報

特筆されるポイント

データサイエンス学部・データサイエンス教育研究センター設置

社会との連携強化

企業等との連携協定等の締結推進
(37機関と協定締結、その他の連携を含めると連携先は50機関超)

企業等との共同研究・受託研究の推進

- 組織として企業・自治体との共同研究・受託研究を推進

⇒研究成果の社会への公表・還元、企業の社員教育・事業への活用

⇒共同研究等の成果をデータサイエンス学部におけるPBL演習教材として活用



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と共同でキャンパス内にビッグデータ専門研究拠点JSSRC(日本セーフティソサイエティ研究センター)開設

＜竹村データサイエンス学部長(左から2人目)、伊藤あいおいニッセイ同和損害保険(株)常務執行役員(同3人目)＞

社会と連携したデータサイエンス教育の展開

- 企業等からデータサイエンティストや実務家講師を招へい
- 連携先企業等への学生達の現場訪問

⇒データサイエンスの社会実装の活用事例に直接触れる教育体制の実現



- MOOC(Massive open online course=インターネットを用いた大規模公開オンライン講座)などによるオンライン教材を開発し、通信企業とタイアップして全国規模でオンライン講義を展開

外部資金獲得活動の展開

- 連携交渉と外部資金獲得交渉を同時に展開

⇒寄附金獲得額、期中累計2億円超
⇒受託研究等の受入額対前年度4倍

